

平成25年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切にする心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る

③ 進路指導の充実

ア 生徒一人ひとりの勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる イ 生徒一人ひとりの学力や適性、興味・関心を明確にさせる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する
ウ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 体育・健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る イ 一人ひとりに応じた特別支援教育の推進を図る
ウ 教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑨ 国際交流の推進

ア 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や資質の育成を図る

⑩ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する
ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

⑪ 教職員の資質向上

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標 人権教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価		
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する	① 人権に配慮した教育活動ができている。 生徒 80%以上 保護者 80%以上 教員 90%以上	① 生徒 79.6% 保護者 87.8% 教員 95.6%	B A A	(評定)	Rの活動、交流意識を学ばせていく。また、サの生人権啓活を	
②自他を大切にする心や態度を育成する	② 生徒の人権意識の向上度 70%以上	② 74.5%	A	A	Hと活すはきのしいやに	
③家庭への啓発活動を推進する	①-1 教職員人権研修会回数 年4回実施 ①-2 「人権週間」の回数 年間4回を設定 ② 人権委員会による「あいさつ運動」 月2回で実施 ③-1 「人権教育展」の回数 年間3回開催 ③-2 校誌の人権コーナーを充実	①-1 4回実施 ①-2 4回実施 ② 実施できない月があった ③-1 3回実施 ③-2 誌面にて啓発を図った	A A B A A	A	Hと活すはきのしいやに	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			
	①-1 年間4回「人権週間」を設定する。 ・ホームルーム活動の活性化を図るため城東人権ゼミを充実させる。 ・人権啓発行事（コンサート・映画・講演会等）の実施	①-1 ・教材の準備やHRの実態に則した授業展開に関して、事前検討会を実施した。 ・10月に人権講演会を実施した。	は、各HRの現状について協議し、各HRの課題を話し合っ、授業に臨んだ。職員研修会は、「インターネット等による人権侵害の現状を知る」こと、「同和教育の手法を人権教育へ生かす」ことを目的として、講師を招き実施した。また、第65回全国人権・同和教育研究大会（徳島大会）には、延べ39名の教職員が参加し、有意義な研修ができた。聾学校との交流事業は今年で3年目である。誰もが参加できる社会づくりに向け、互いの生徒が学習できる交流となるよう、特活課と協力していきたい。人権啓発作品では、人権委員をはじめ全校生徒の協力のもと、多くの作品を校内に掲示できた。また、本年は人権に関する標語、ポスター、作詞作曲で校外表彰を受けた。			学校関係者の意見
	①-2 人権意識高揚のための職員研修会を年間4回実施する。	①-2 4, 7, 12, 3月に実施した。				
	② ・人権標語の募集、展示 ・聾学校との交流（3年間継続） ・1年生のホームルーム活動において、個々の人権意識の確立を目指し外部講師の招聘を行う（年2回以上）とともに、体験学習を取り入れた活動を実施する。 ・あいさつ運動を月2回のペースで実施する。	② ・標語や啓発作品を全校生徒から募集し人権展で展示。 ・11月に、1学年を対象として、聾学校教員による講演会を実施。 ・1学年全体で、人間関係の構築を目的としたクラス交流会を実施				・充実した活動ができている。 ・人権問題は教育の根幹であり、より一層の努力が望まれる。
	③-1 P T A 総会・城東祭（文化祭）や「とくしま教育の日」に「人権教育展」をそれぞれ開催する。	③-1 ・5月（P T A 総会）、9月（文化祭）、11月（とくしま教育の日）にポスター、書道作品、生徒作文等を展示。				
	③-2 校誌の人権コーナーを充実し、保護者への啓発活動を確実なものとする。	③-2 ・校誌の人権コーナーに、人権作文、生徒の人権活動の記録等を啓発資料として掲載。				

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	授業に関するアンケート（生徒）	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る ② 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る ③ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る	①-1	授業の工夫改善度 各教科70%以上 学習に対する動機付け 75%以上 学習に対する意欲度 75%以上	①-1 8教科が70%以上 (平均78.1%) 77.7% 90.1%	A A A	B	学習意欲を引き出すという点については、授業での工夫、継続的な全体・個別指導等が一定の成果をあげ、数値的には上昇傾向にあるが、目標を達成するにはいたらなかった。次年度に向けては、より生徒の実態に沿った、評価指標や活動計画を検討・実施する必要がある。 主体的に学習に取り組む態度の育成は、数年来の課題としていたが、満足のいく達成度にいたっていない。引き続き地道な取り組みを続けると共に、新たな方策を開発する必要がある。 学習指導要領の改訂に伴う教育課程の編成はいったん完了した。ただし、一部に運用上の問題点も見られる。改善を図りつつ、また刻々変化する全国的な教育の動向にも注視しながら、適切な実施に努めなければならない。
	②-1	予習への取り組み度 50%以上 復習への取り組み度 50%以上	③-1 46.1%	B		
	③	進路希望にあったコース(教科・科目)の満足度 80%以上	③ 90.7%	A		
	①-2	研究授業参加回数 各教員年2回 授業公開 年3回	①-2 研究授業参加0~2回 授業公開3回実施	B A		
	②-2	生徒の家庭学習時間(1日あたり) 0時間の生徒の割合 10%以下 3時間を超える生徒の割合 30%以上 1日あたりの平均学習時間 3時間	③-2 (4~1月) 1年 16.7% 2年 20.7% 1年 24.3% 2年 23.7% 1年 2.4時間 2年 2.3時間	C C C		
	③	将来ビジョン検討委員会、教育課程検討委員会開催回数 各年3回	③ 将来ビジョン検討委員会0回 (主任会・校務運営委員会で代替11回実施) 教育課程検討委員会 3回	B A		
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見) 授業に関するアンケート結果によると、昨年度と比べて、「学習に対する意欲度」を除いてはいずれの項目も数パーセント上昇している。しかし、授業の予習・復習への取り組み度は今年度も指標を達成するにいたっていない。 生徒の家庭学習時間も、昨年度から若干よい数値となっはいるが、指標を達成できなかった。 活動計画については、公開授業、家庭学習時間調査、授業時数の確保等、概ね順調に実施されており、良い成果をあげている。一方、教科研究会、シラバスの作成等、実施の在り方に改善の余地がある項目がある。	
	①-1	教科研究会を定期的実施し、授業力の向上・指導案の研究をする。 シラバスの改訂を行う。	①-1 教科研究会の実施は不十分かもしれない。 本年度分シラバス作成 ただし、改善の余地あり			
	①-2	研究授業、公開授業等で他の教員の授業を参観し授業力の向上を図る。				
	②-1	・第1学年で英数国の学習ガイダンスを4月に特設授業の中で実施する。 ・好ましい学習態度を理解させる。 ・予習・復習、授業の受け方指導。 ・家庭学習時間調査を毎日実施する。	①-2 研究授業5回実施 尾崎・松田教諭各2回 市川教諭各1回 ・公開授業での参観3回			
	②-2	・週末課題、週末テストを実施し、家庭学習の習慣化を徹底する。 ・学年団による学習指導、生活指導の充実を図る。 ・基礎学力養成講座、再テストの実施。	②-1 学習ガイダンス実施 ・家庭学習時間調査を全学年毎日実施 ただし、3年は7月まで			
	③	・学校行事の精選、定期考査の工夫を行い、授業時数を確保する。 ・将来ビジョン検討委員会、教育課程検討委員会において、教育課程やコース制の在り方等を検討する。	②-2 学習の習慣化については継続的に観察が必要 ・基礎学力養成講座実施 ③ 授業時数の確保状況は例年並であった。 平成26年度教育課程編成完了			学校関係者の意見 ・家庭学習時間の統計方法に関しては、学校授業以外の勉強時間とし、塾や学校での自習時間等も含めた方が理解しやすい。

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	進路指導に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒一人ひとりの勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる	② 城東ゼミ（補習）の有有用度	70%以上	① 生徒 62.9%	B	（評定）	学校が引率するオープンキャンパスの参加について、東大・京大のみならず、他の大学の可能性も考えている。企業研修については昨年度から1年生を全員参加とし、企業で研修を受けたが、業を開拓したい。1年生から2年生に移行する段階で模試の成績が低下している。または、新課程となり、進度、指導方法、入試への対応等について、は今後の検討等がある。他県・他校等の情報を十分収集しながら取り組んでいきたい。
	③ 進路情報の学校の提供度	80%以上	② 生徒 84.5% 保護者 86.5%	A A		
②生徒一人ひとりの学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる	①-1 大学見学・企業見学の回数	各1回以上	①-1 大学見学・企業見学の回数 各1回実施	A	A	
	①-2 大学等授業体験の実施回数	1回以上	①-2 大学等授業体験 10月実施	A		
③進路実現のために必要な情報を迅速かつ適確に収集し、組織的・計画的な指導を行う	①-3 職業ガイダンスの回数	1回以上	①-3 職業ガイダンス 10月実施	A		
	②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数	90講座以上	②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数 90講座	A		
	②-2 志望する学部等への合格率	80%以上	②-3 課題研究発表会 2月実施	A		
	②-3 課題研究発表会の回数	1回以上	②-4 学力テストの講評 11回配布	A		
	②-4 学力テストの講評の配布回数	11回以上	③ 進路説明会回数 4回実施	A		
	③ 進路説明会回数	年間3回実施 (各学年1回以上)	活動計画の実施状況	（所見） 京都大学・東京大学のオープンキャンパス参加や企業研修、大学体験授業、職業ガイダンス等については、計画通り実施することができた。企業研修については、昨年度から1年生全員が参加する行事とし、キャリア教育をより充実したのも進路指導についても、3年生への指導は計画通り実施できた。1, 2年生においても進路検討会を各3回実施し教員間やクラス間で情報を共有学年の変わり目3学期から1学期にかけて十分担任士の引き継ぎを行いたい		
	活動計画		①-1 オープンキャンパス 京大 1年生 8/7 36名 東大 1年生 8/7 9名			
	①-1 京都大学見学の実施。企業見学の実施。オープンキャンパスへの参加の推奨。		①-2 10月に徳島大学で実施 10/23～25 75名受講			
	①-2 第2学年での大学等体験授業の実施。		①-3 10月24日に実施			
	①-3 第1学年での職業ガイダンスの実施。		②-1 毎週34講座（3年生） 32講座（1年生） 24講座（2年生）			
②-1 補習、模擬試験、休日講座等を実施。 毎週34講座（3年生） 24講座（1年生） 24講座（2年生）		②-2 3年生 4回 1, 2年生 3回				
②-2 進路検討会を第3学年で年4回実施、第1, 2学年で3回実施する		②-3 課題研究発表会 2月				
②-3 第2学年で課題研究発表会の実施。		②-4 11回配布				
②-4 学力テストの講評を全学年で延べ11回配布		③-1 1・2年1回実施 3年2回実施				
③-1 進路説明会の実施。（各学年1回）		③-2 3年 1回				
③-2 最難関大学進学希望者説明会の実施。		③-3 1年1回、2年1回				
③-3 難関大学、医・歯・薬学部進学希望者説明会の実施。						

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	生徒指導についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る	①-1	服装・頭髪・挨拶が身についている。 生徒 80%以上 教員 85%以上	①-1 生徒 81.9% 教員（服装・頭髪）91.3% 教員（挨拶）65.7%	A A C	（評定） A	自転車での登下校中の事故が多かった。事故防止等の安全教育や、自転車運転のマナーの向上に努めると共に、事故が起きたときの対応の再確認を行う。駐輪場のマナーの徹底も必要。 職員室の入室マナーや、女子生徒のタイツの上に履く靴下の徹底ができていない。服装・頭髪指導やマナーについての集会を今後より充実させる。携帯電話・スマートフォン・インターネットでのトラブルが心配される。保護者に子どもへの携帯電話の使い方の依頼をする必要。生徒・保護者・教員への最新情報の提供も随時実施する。
	①-2	ルール・マナーを守っている。 生徒 85%以上	①-2 生徒 92.9%	A		
②学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する	③-1	組織的な生徒指導ができています。 教員・保護者 85%以上	③-1 教員 89.8% 保護者 93.2%	A A	A	
③生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する	①-3	生活委員による登下校でのあいさつ・駐輪場のマナーアップ運動の実施回数 年間3回	①-3 1学期に1回、2学期に2回、3学期に1回行った。 5月に徳島東署と連携し、鷺の門前でマナーアップ運動を行った。（1回） 車体検査を行っている。（1回）	A B A		
	①-4	交通マナーアップ運動実施回数 年2回	①-4 2回実施 ② 1学期2回。2学期1回。（3回）。	A		
	②	道徳教育のHR活動の回数 年2回	②	A		
	③-2	クラス分析会の実施 年4回	③	A		
	活動計画	活動計画の実施状況		（所見） 服装・頭髪については、目立った生徒もおらず、指導等も素直に聞き入れている。しかし、職員室の入室マナーや、女子生徒のタイツの上に履く靴下の徹底ができていなかった。遅刻に関しては、3年生が特に多く、担任・教頭の対応だけでは、なかなか減らない状態であった。登下校中の交通事故が多く、集会の度に指導を行ってきたが、昨年度よりも件数は多かった。事故後の対応も、満足なものではない。（4月に自転車安全運転教室。6月に携帯電話のマナーについての講演を行っている。） あいさつに関しては、生徒自ら声をかけられるのは、部活動の生徒ぐらいだった。教員からの声掛けがあれば、あいさつができる生徒は増えてきた。		
	①-1	各学年での服装・頭髪指導を充実させる。	①-1 各学年の生徒課員を中心に2回行っている。	学校関係者の意見 ・社会の一員としてのマナーは第一印象を決める大事な要件のため、相手の顔を見てあいさつをする必要を身に付けさせなければならない。 ・携帯電話の利用のあり方をどこかで討議すべき。 ・即戦力を求めたがるのが社会の風潮だが、人が育てる土壌を作ることが望まれる。		
	①-2	遅刻の多い生徒に対し、段階的な指導として担任・生徒指導課・学年主任・管理職による個別指導を行う。状況に応じて保護者を呼んで指導を行う。	①-2 担任からの報告や、相談については、いつでも対応できる状態である。			
	①-3	生活委員によるあいさつ運動・自転車駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施。	①-3 1学期に1回行っている。2学期に2回、3学期に1回実施。			
	①-4	交通マナーアップ運動などを通じて、全校生徒に社会のルールを守る事やマナー指導を行う。	①-4 校外でのマナーアップ運動を行うことによって、少しでも意識してもらえるように、努力している。車体検査を1回行っている。			
	②	道徳教育に関するHR活動を各学年で実施する。	② 2回実施			
	③	様々な問題を抱えた生徒に対して、学年や部活動顧問及び生徒指導課等が連携し、多方面から生徒の家庭状況や心身の把握に努め、個々にあった適切な指導を模索し、効果的な指導に努める。	③ 相談のあった生徒に対しては、個別に面談を行い、対応をしている。（現在は交通事故関係の指導・相談ぐらいである。）			

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	特別活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する ② 部活動を充実させる ③ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる	① 生徒会活動が活発である。 （生徒・保護者・教員） 70%以上	① 生徒 61.6% 保護者 83.4% 教員 88.2%	① 生徒 57.8% 保護者 69.0% 教員 58.9%	B A A	（評定） B C B C C （所見） 特別活動は、全般として計画通りに実施することができた。生徒会活動や学校行事・委員会活動において、生徒の自主性を尊重し、指導ができていた。ただ、ルームや部活動も特別活動の「触れ合い」が希薄になりつつある。増の影の確保の難いこと、より効果的に実施する必要がある。	各学年のクラス数の1職 減員数も、との生徒の活動の指導が、慮れも動討する。清掃は年1回も年雨こ3慮と思 各学年のクラス数の1職 減員数も、との生徒の活動の指導が、慮れも動討する。清掃は年1回も年雨こ3慮と思 各学年のクラス数の1職 減員数も、との生徒の活動の指導が、慮れも動討する。清掃は年1回も年雨こ3慮と思
	② 部活動の入部率 70%以上	② 入部率 80%以上	② 本年度雨天のため中止	A		
	③-1 募金活動などのボランティア活動に積極的に取り組む。70%以上	③-1 生徒 57.8% 保護者 69.0% 教員 58.9%	③-2 本年度雨天のため中止	C B C C		
	③-2 1・2年生全員による清掃ボランティア活動を年1回以上実施。	③-2 本年度雨天のため中止				
	③-3 清掃ボランティア満足度 75%以上					
	活動計画	活動計画の実施状況				
	① 委員会活動の充実 ・学校行事への積極的参加 ・聾学校との学校交流の推進 ② 部活動と学習面との両立を可能な範囲の中で図る。 ③-1 ボランティア活動への積極的参加について、生徒会執行部やJRCとの協力の中で実践する。 ・地域（施設や諸学校など）に根づいたボランティア活動の実践。 （生徒会・Knowサークル・邦楽部・茶道部・華道部・体育部など） ③-2 生徒会や体育部による学校周辺の清掃活動の実施。 ・1・2年生全員による清掃ボランティア活動を年1回以上実施。 （河川敷の清掃も行う）	① 委員会活動は、各委員会が計画した活動計画に沿って活動ができていた。 ・学校行事には、ほとんどの生徒が、積極的に参加できている。 ・聾学校との学校交流は、話し合いをしながら実施をしている。2学期に、本校1年生対象の学習会を実施した。 ② 部活動と学習面との両立は、各顧問の指導とともに可能な範囲の中で実施している。 ③ ボランティア活動への参加については、時間的な問題で多くのことはできていないが、生徒会や体育部による学校周辺の清掃活動の実施や施設・諸学校などの学校行事へでの招待、JRCとの協力の中で募金活動など、できる範囲の中で実践をしている。				
					学校関係者の意見 ・ボランティア活動をより一層充実させることが望まれる。	

6 体育・健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	保健・教育相談のアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る	①-1	保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 70%以上	①-1 生徒 85.7%	A	A (評定)	生徒の心身の健康問題は多様化しているため、それらに対応するためには、校内の支援体制及び関係機関との連携の充実が必要と思われる。食育については、各教科、各課との連携を図り、生徒や保護者への啓発活動の充実を図る。 現在、担任や学年主任、保健室やカウンセラーと連携を取り、概ね問題のある生徒に早期対応できているが、事例の関係者が対応を協議できるような場をさらに設定できれば、担任の負担軽減に繋がると考える。 職員研修については、カウンセリングを受ける程ではないが、日常生活の躓きを感じている生徒が、自身の力で問題解決していくための教師側のアプローチの仕方など、より具体的な方策の紹介に努める。
	②	親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる 70%以上	② 生徒 80.9%	A		
	①-2	「保健便り」の発行 10回以上	①-2 13回発行	A		
②一人ひとりに応じた特別支援教育の推進を図る	①-3	尿検査の提出率 100%	①-3 100%提出	A	A (所見)	① 保健室での対応については、生徒の自己評価で高い評価が得られている。また、尿検査は100%の提出率を達成できた。「保健便り」の発行や、保健室掲示板や文化祭の展示等で健康増進や食育啓発に努めた。 ② 計画どおりに実施。 ③-1 学年会での情報交換はスムーズに実施されており、生徒の早期発見や対応に繋がっていると考えられる。 ③-2 2学期に入ってから利用者の増加が見られた。また状態が重く継続して教育相談を受ける生徒も増加するなど一時心配されたが、カウンセラーと、担任・学年主任など関係教員との情報交換や連携がスムーズに運び、深刻な状態に至るケースは少なかった。
③教育相談活動の一層の充実を図る	②	職員研修会の実施回数（年2回）	② 5/18（木）・10/15（火）に2回実施	A		
	活動計画		活動計画の実施状況			
	①	「保健便り」の発行を年10回以上。 ・保健委員会での生徒の自主的活動の推進。 ・文化祭での展示により、健康増進への啓発を図る。 ・各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。	① ・保健便りを年13回発行 ・2週間に1度、保健委員が消毒液の補充など感染症予防対策を実施 ・文化祭では、健康増進や献血啓発の展示を実施 ・各教科・各課と連携し食育啓発活動を実施			
	②	特別支援教育に関する職員研修会を1学期、2学期にそれぞれ1回実施する。	② 5/18・10/15の2回校内職員研修を実施した。			
	③-1	各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的に行い、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。	③-1 各学年でそれぞれ4回ずつ情報交換会が行われ、気になる生徒の情報を共有。それを参考に適宜生徒への支援を実施。			
	③-2	カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動の充実。	③-2 H25.4/25～H26.3/13の利用状況は、 (1年) 男0人(0回) 女6人(16回) 保護者4人(9回) (2年) 男1人(13回) 女6人(33回) 保護者5人(8回) (3年) 男0人(0回) 女1人(12回) 保護者1人(4回)			
						学校関係者の意見 ・充実した活動ができています。 ・食事の大切さなども教える必要がある。大学生になると切実な問題だと思う。

7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	環境教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
① 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る	①	環境美化活動に積極的に取り組んでいる。 80%以上	① 生徒 72.3% 教員 81.1%	B A	A	環境面では、次年度、環境美化や清掃活動に熱心に取り組んでいると意識が、80%を超えたい。対策を考えていきたい。教職員が率先して行動し、生徒たちの意識を高めることが重要である。防災面では、地震・津波についての訓練の際に、施設を少しずつ変えて実施することにより、“訓練のための訓練”にならないよう、取り組みたい。地域住民の方の避難所となった場合の体制も、東日本大震災での体験、記などを参考に整えていく必要がある。防災クラブのメンバーは、たいへん意欲的に活動しており、次年度も積極的に活動していきたい。出してくれたい。予算や時間的課題が
	②	清掃活動に熱心に取り組み、美しい環境を保つよう心掛けている。 80%以上	② 生徒 76.0% 教員 71.0%	B B		
② 校内外の環境美化活動を推進する	③-1	避難訓練に取り組んでいる。 (年2回実施)	③-1 火災避難訓練実施(7/5) 地震津波避難訓練実施(10/16)	A	A	防災クラブについては、予算や時間的な制約が多いなか、生徒たちは、実現可能なアイデアを出して、主体的に活動し、クラブ員以外の生徒や職員の防災意識を高めることに、大いに貢献した。地域の防災イベントにも積極的に参加し、地域の防災に関するリーダーになり得ると期待できる。これまでの活動が評価され、「まなぼうさい活動賞」を受賞した。
③ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する	③-2	AED講習を実施している。 (年2回実施)	③-2 1年生対象心肺蘇生法講習実施(5/29) 教職員対象心肺蘇生法講習実施(8/20)	A		
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見)	学校関係者の意見
	①-1 節電・節水の呼びかけ		①-1 各HRにおいて、環境委員から節電・節水を呼びかけた。		環境面では、「新学校版環境ISO」認定校として、具体的行動目標を定めて取り組んでいる。ひとつひとつの小さな取り組みを重ねることにより、生徒・職員の環境に対する意識を高めることができた。	・防災活動をより充実させることが望まれる。
	①-2 環境問題に関する記事の掲示		①-2 電気・水道使用量をグラフ化し、掲示した。		防災面では、避難訓練やJアラートを利用した訓練を重ねることにより、防災意識を高めることができた。	
	②-1 毎日の清掃を徹底		②-1 各HRにおいて、清掃の徹底を呼びかけた。		防災クラブについては、予算や時間的な制約が多いなか、生徒たちは、実現可能なアイデアを出して、主体的に活動し、クラブ員以外の生徒や職員の防災意識を高めることに、大いに貢献した。地域の防災イベントにも積極的に参加し、地域の防災に関するリーダーになり得ると期待できる。これまでの活動が評価され、「まなぼうさい活動賞」を受賞した。	
	②-2 環境委員による校内や学校周辺の清掃活動の実施		②-2 毎月10日20日30日はゴミ0の日として、ゴミの減量を行い、環境委員が清掃活動を放課後に7回行った。			
	③-1 防災計画の周知・徹底		③-1 「防災計画」を見直し、役割分担等を確認するとともに、避難訓練でも活用した。			
	③-2 防災訓練の実施及び避難経路の確認		③-2 2回の避難訓練実施の他に、Jアラートを利用した訓練を2回行い、避難経路や行動を確認した。			
	③-3 職員・生徒へのAEDの講習会をそれぞれ1回実施(保健体育科合同主催)		③-3 職員・生徒対象のAEDの講習会を各1回行った。			
	③-4 「防災クラブ」の活動を推進		③-4 防災クラブの活動として、校外防災イベントへの参加、文化祭での防災シミュレーションによる生徒・一般の方への啓発、防災クラブによる校内職員研修を行った。			

8 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	読書活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る ②生徒の自主的な読書活動を推進する	①-1 読書活動に学校として積極的に取り組んでいる	70%以上	①-1 生徒 63.5% 教員 86.6%	B A	(評定) B	読書時間数のきちんと把握するため、生活記録の「読書」欄をもっと活用する。 読書への関心が高まる工夫を考える。 図書館の利用が増えるような工夫をする。
	①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数	5冊以上	①-2 生徒一人あたり 3.2冊 (12月末現在)	B		
	② 読書会、読書週間の実施回数をそれぞれ	年2回以上	② 読書会は3回、読書週間は、各学期1回ずつ実施した。	A		
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見)	学校関係者の意見
	①-1 読書会、読書週間を各学期にそれぞれ1回実施する。		①-1 読書会は、第1回5月27日「論語の素読」を実施し参加生徒は16人。 第2回10月21日「おすすめの本の紹介・群読」を実施し、参加生徒は12人。 第3回12月16日「文学おもしろ講座」を実施し、参加生徒は33人。		計画した活動は、計画通り実施できたが、アンケート結果の通り、生徒の読書への啓発は、まだ十分ではない。 また、貸出数も昨年同時期より一人あたり0.7冊減っている。 これらからすぐ読書量が減っているとはいえないが、読書への意識をもっと高め、図書館の利用も増える方法を検討したい。	・読書離れは全国的な傾向であるが、少し寂しい気がする。
	①-2 「ライブラリーニュース」を毎月発行する。		①-2 「ライブラリーニュース」は8月を除き毎月発行できている。			
	①-3 学校ホームページに図書館情報を掲載する。		①-3 ホームページにも「ライブラリーニュース」を逐次アップしている。			
	②-1 図書委員が校内アナウンス等で読書啓発をおこなう。		② 1・2年生の生活記録に「読書」欄を設け、読書への関心・意欲を高めようとした。			
	②-2 生活記録に「読書」欄を設け、読書への関心・意欲を高める。					

9 国際交流の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	国際交流についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る ②国際社会の中で主体的に生きる能力や資質の育成を図る	①②	国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる。（生徒・保護者・教員） 85%以上	①② 生徒 80.7% 保護者 87.9% 教員 89.4%	B A A	(評定) A	来年度はフランス・サンジョセフ校との交流の年なので、受け入れホストファミリーの確保に努める。そのためにも、学年初より生徒に対し、広報に努めたい。 国際理解を推進するための諸行事に積極的に参加するよう促す。特に「JICA 四国高校生国際協力体験プログラム」については、各校の募集定員である4名に参加させたい。
	①	姉妹校交流の活動記録展示回数 2回	① 2回実施	A		
	②-1	国際理解弁論大会等の生徒参加人数 1名	②-1 3組（6名）参加	A		
	②-2	国際理解教育に関する諸行事の参加回数 2回以上	②-2 1回 (JICA 四国高校生国際協力体験プログラムに2名参加)	B		
	活動計画	① 文化祭などでサンジョセフ校との交流記録を展示する。	活動計画の実施状況	(所見)		学校関係者の意見
	②-1	「国際教育振興弁論大会」への参加を奨励する。	① 4月 第7回交流記録の展示（主に3年生） 9月 文化祭で第7回交流記録の展示（主に2年生） 文化祭終了後は廊下に展示	姉妹校交流の記録を派遣生徒が中心となって展示することができた。派遣生徒の1名が作成した体験記も一緒に展示し、好評であった。「国際教育振興弁論大会」には全部門への参加があった。グループの部は四国大会でも発表し、良い経験となった。		・今後も活発な交流が望まれる。
	②-2	・JICA「高校生国際教育体験プログラム」への参加を奨励する。 ・その他国際交流関係のプログラムを紹介し、参加を奨励する。	②-1 英語の部1名、日本語の部1名、グループの部1組（4名）が参加 グループの部 最優秀 日本語の部 優秀	アメリカ・ドイツの高校生が来校し、多くの生徒が交流した。コミュニケーションをとることの楽しさを生徒も実感し、自信を持った生徒も多かった。「JICA 四国高校生国際協力体験プログラム」への参加が例年より少なかったのは残念である。PR方法を検討したい。		
			②-2 7月 「ロータリー短期交換プログラム」のアメリカ人高校生25名と半日交流 8月 「JICA 四国高校生国際協力体験プログラム」に2名参加。 9月 文化祭に県内在住外国人5名を招待し、交流。 10月 ドイツ人高校生1名が1日授業体験			

10 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	開かれた学校のアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①教育活動の積極的な公開を推進する ②ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する	①-1 教育活動の公開が学校の理解に役立っている（保護者） 85%以上	①-1 保護者 94.0%	A	A	(評定)	ホームページをほとんどの保護者が閲覧している状況になっているので、生徒達の学校での活動がよりよくわかってもらえるような内容にしていく必要がある。 中学生体験入学、学校説明会は他校の日程や中学校の行事等も考慮して、検討していく。
	②-1 ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立っている（利用の保護者対象） 80%以上	②-1 保護者 82.5%				
③地域社会，PTA，同窓会との連携を図る	①-2 授業公開を年3回実施 参加者数（合計） 800名以上 中学生体験入学の参加者数 中学生 800名以上 保護者・教員 100名以上	①-2 授業公開 3回の合計838名 体験入学 中学生 684名 保護者・教員 168名	B	A		
	②-2 ホームページの更新回数 年90回以上	②-2 更新回数 90回	B			
	③-1 学校支援協議会の開催回数 年2回	③-1 6月29日に実施。 3月25日に実施。	B			
	③-2 学校説明会の回数 年3回	③-2 3回実施	A			
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)			
①-1 ・授業公開を実施する。中学校、大学、学校評議員、保護者等への案内を徹底する。 ・中学生体験入学の実施については体験授業、体験入部の内容や方法等について事前に十分検討する。	①-1 ・授業公開 5月11日 576名参加 6月29日 219名が参加 11月1日 43名が参加 ・中学生体験入学 他校と日程が重なり減少した。	アンケート結果によるとほぼ目標を達成できている。体験入学の参加人数は他校と日程がバッティングしたため昨年度より減少しているが、逆に教員・保護者は増加している。 ホームページについては昨年度より、上昇している。学校説明会は、中学校の行事等も考慮し日程を工夫したために昨年度より大幅に参加者が増えた。				
②-1 ホームページをリニューアルし、内容の速やかな更新に努める。	②-1 会の予告だけでなく、行事の様子等の掲載を増やした。					
③-1 学校支援協議会を6月と3月にそれぞれ1回開催する。	③-1 6月29日（土）実施済み 3月25日（火）実施。					
③-2 中学生及び保護者対象の説明会を開催する。日程や中学校への案内を工夫する。	③-2 9月21日（土）10月1日（火）10月27日（日）実施。 延べ200名が参加。					
					学校関係者の意見	・学校評価についても評価の結果の経年変化がわかればよい。

11 教職員の資質向上

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	職員の仕事についてのアンケート	評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る	① 教員の職務の満足度	90%以上	① 100%	A	(評定)	来年度も1クラス減となる。教員が減少する中で教育活動が停滞しないように、校務分掌の見直しや配置の工夫をして教育力の向上を図りたい。教員数の減少に対して、教員の多忙感を少しでも減らせるように、会議の精選や実施方法の工夫を図ってきたい。
	②-1 コンプライアンスに対する自己評価	90%以上	②-1 98.5%	A		
②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る	②-2 危機管理に対する取り組み	90%以上	②-2 98.5%	A	A	
	②-2 情報セキュリティポリシーについての研修会の回数	年2回実施	②-2 研修会は1回実施したのみであるが職員朝会で適宜注意を喚起した。11名が参加。	B		
③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	③ 校外での指導力向上研修参加人数	10名	③ 11名が参加。			
	活動計画	活動計画の実施状況			(所見) 今年度から主任連絡会定期的にもち校内の課題・生徒の問題等について、情報の共有化を図った。情報セキュリティに関しては、特にUSBの紛失による情報の漏洩を防ぐために対策をより強化した。また他にも、実地監査の助言等を受け、さらに徹底を図った。	
	①-1 校務運営委員会の活性化を図るため、主任を中心とした月例連絡会をもつ。		①-1 主任連絡会を4月から毎月実施。情報の共有化を図っている。			
	①-2 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する		①-2 共有フォルダを活用した文書管理を進めることができた。			
	② 本校の「情報セキュリティポリシー」を確実に実行できるようにする。		② USBは教頭が管理することに変更した。			
	③-1 職員研修を計画的に年間を通じて配置し、効率的な研修を行う。		③-1 定期考査時に職員研修を計画、実施している。			
	③-2 予備校等の授業力向上研修に参加する		③-2 県外の予備校での研修会に予定を含めて8名が参加。			
						学校関係者の意見 ・教員の職務の満足度が高く、今後も継続することを願っているが、メンタル面・健康面には留意されたい。